

令和6年度 学校評価書(共通) 後期

校名 宇和島市立城東中学校

1 自己評価書

教育目標 一生懸命な生徒を育てる ～その姿勢が自分も周りも幸せにする！～						
基本方針 校区の人材や資源を生かすとともに、保護者や地域の願いを踏まえながら、校内外の諸活動に一生懸命取り組んでいくことができる生徒を育成する。また、個別最適な学びと協働的な学びを大切に、確かな学力、豊かな心、健やかな体をバランスよく育み、変化する社会を生き抜いていく力を身に付けさせる。						
本年度重点目標 1 活気に満ちた生徒活動の推進 2 生徒指導の充実 3 確かな学力の定着と向上を図る学校教育の推進						
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	各調査の分析により成果と課題を把握するとともに、「身に付けさせたい力」の明確化を図り、組織的に推進することができた。	・分析資料の作成	B	B	
			・具体的な対策の実施	B		
	②	授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善に努めた。 ねらいを明確にした分かる授業を行うとともに、学びの成果を実感させる振り返りを行った。 一人1台端末(iPad)やEILS(コンテンツバンク)の活用により、個別最適な学びを推進したり学習内容の定着を図ったりした。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	A	
				・児童生徒アンケート	B	
	③	家庭学習の充実	家庭との協働による主体的な学習習慣の確立に努めた。(予習・復習・振り返り等)	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	B	
				・児童生徒アンケート	A	
	④	読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート	B	B
				・保護者アンケート	B	
				・児童生徒アンケート	B	
	⑤	ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする態度の育成に努めた。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	B	
				・児童生徒アンケート	A	
	確かな学力の定着と向上	<p>(成果と課題)</p> <p>○「紙に書く」論理的に構成したり、文章を書いたりする能力が低い傾向にある。ICT機器とアナログの両方の良い点をミックスさせ、生徒を伸ばすためにはどちらが有効かを使い分けなければならない。</p> <p>○主体的・対話的で深い学びの実現のために各教科で工夫が行われている。ICT機器を活用した授業は個々の教員で活用が進んでいるが、全体的な活用になっていない。さらなる研修の必要性である。</p> <p>○ロイノートやすららドリル等のICT機器を活用した宿題が多くなっているが、その有用性の検証はまだできていないと感じる。</p> <p>○図書室利用者が少ないため、利用環境を整え、積極的に呼び掛けを行っていききたい。</p> <p>○後期は各学年の総合的な学習の時間で地域と連携して行う学習が多かったため、生徒の地域に対する郷土愛が高まったと考えられる。1年生は自らが地域の良さを発信することをテーマに学習したため、地域の良さに気付けたのではないかなと思う。今後も継続してキャリア教育の視点で地域の良さについて考えながら、自分の将来像をえがけるようにしていきたい。</p> <p>○修学旅行で、地域外の良さを調べたり紹介したりする活動を通して、宇和島にも自慢できるものがあることに気付くことができた。姫路城では、ガイドから宇和島城も現存天守であることを聞き、宇和島の歴史や文化施設を大切にしたい気持ちが高まった。</p> <p>○修学旅行のまとめに十分な時間を取れなかった。</p> <p>○3年生の「職場体験学習」では、4日間の職場体験と1日の土木の日を実施したが、4日間の職場体験が長いと感じている事業所が年々増えてきている。活動自体は、生徒の進路学習としてとても有効な活動となった。</p>				
<p>(改善策等)</p> <p>○論理的に文章を書くことを重視した課題を各教科で取り入れる。また、それを「紙に書かせる」場合と「ICT機器で書かせる」両方を実施していきたい。</p> <p>○コンテンツバンクを活用した問題作成やテストの自動採点システムの研修を行っていく。</p> <p>○ICT機器を活用した宿題についてこれから変化等が予想されるが、その変化に教員が対応するために研修の必要性がある。</p> <p>○図書委員会でポップアップカードを作成し環境を整え、生徒が図書室に行きやすく、積極的に本を借りられるようにしていきたい。</p> <p>○旅行後のまとめで、旅行先で学んだことに加えて、地元に戻元できるようなテーマを設けてまとめや発表を行う。</p> <p>○旅行先の選定で、文化面だけに偏らず、産業面にも目を向ける。</p> <p>○今後の活動で、地域の方々と触れ合う体験学習を予定しているが、地域性や環境など、広い視野で考えた学習にしていきたい。</p> <p>○「職場体験学習」を事前訪問を1日、体験活動を3日、土木の日を1日の合計5日間で実施していくようにすると事業所も受け入れやすいと感じる。</p> <p>○県立高等学校の特色入学者選抜が来年も同時期に実施される場合は、進路学習と職場体験の事前学習、人権・同和問題学習、文化祭準備が同じ時期に行われ、3年教員の負担が多すぎると感じた。難しいがどれかの時期をずらす必要があると思われる。</p>						

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
生徒指導の充実	① 規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート	A	A	
			・保護者アンケート	B		
			・児童生徒アンケート	A		
	② 児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	A	
				・児童生徒アンケート	A	
		不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート	A	A
				・児童生徒アンケート	B	
				・保護者アンケート	A	
	いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート	A	A	
			・児童生徒アンケート	A		
			・保護者アンケート	A		
	③ 関係機関との連携	関係機関との連携	スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、子ども支援教室わかたけ等の積極的な活用を心掛けた。	・教師アンケート	A	A
				・児童生徒アンケート	B	
				・保護者アンケート	A	
	④ 自己肯定感等	自己肯定感等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。 自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート	A	A
・児童生徒アンケート				B		
・教師アンケート				A		
・児童生徒アンケート				A		
<p>(成果と課題)</p> <p>○生徒は落ち着いた学校生活を送ることができている。不安や悩みを抱える生徒に対しては、学年主任を中心に各学年部で教育相談の時間を設けるなど生徒に寄り添った生徒指導体制ができている。</p> <p>○学校行事やボランティア活動等を充実させていく取組を全校体制で行うことができている。各活動の事前事後において、活動の目的や成果を生徒に実感させることができる取組を検討していきたい。</p> <p>○生徒の自己肯定感の項目がB評価となっているので普段の授業や行事、部活動など多面的に自己肯定感を高められるようにしていく必要がある。</p> <p>○体育祭や文化祭等の学校行事や部活動、ボランティア活動を通して、多くの生徒が自己有用感や達成感を感じることができている。また、学校全体で頑張り認め合える意識が高まってきている。</p> <p>(改善策等)</p> <p>○関係機関との連携の項目が低いのは関係機関の存在を認知できていないことも考えられる。関係機関の通信等を各学級で配布する時に学級担任から紹介するなどの取組を行っていく。</p> <p>○自己有用感や達成感を、自己肯定感につなげられるような取組を委員会活動等を通して工夫していく必要がある。</p>						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価		
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス	時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指すために、教職員の働き方の意識改革に努めた。	・教師アンケート ・「出勤・退庁調査」の分析と活用	C B	B	
	②	働きやすい環境づくり	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。(枠を移動しました。)	・教師アンケート	A	A	
			休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	A	A	
③	他の教職員のサポート体制の充実	教職員同士が仕事を手助けしたり、スクールサポートスタッフ、地域人材などを積極的に活用したりして、職場の仕事のサポート体制が充実した。	・教師アンケート	A	A		
<p>(成果と課題)</p> <p>○期末テスト最終日を4時間授業、部活動終了時刻を早めるなどして、繁忙期の成績処理に携わる時間を確保することができた。</p> <p>○体育祭の保護者駐車場整理等を業者に頼むことにより、PTA役員との打ち合わせ時間等を取ることなく行事を実施することができ、PTA担当教員の勤務時間外の業務をなくすことができた。</p> <p>○ノー部活動デイを設定し、計画的な部活動運営を行うことができた。</p> <p>○行事担当教員の負担が大きく、時間外勤務が増加した。</p>							
<p>(改善策等)</p> <p>○ノー残業デイの日を設定し、管理職や学年主任等による積極的な声掛けを行う。</p> <p>○行事担当者を複数配置することにより、担当者の業務内容の平準化に努める。</p>							
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価		
地域との連携	①	学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。	・教師アンケート	A	A	
			学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、熟議によって地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・地域アンケート	A A A		
			②	情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。		・教師アンケート ・保護者アンケート ・地域アンケート
③	来校・相談体制	来客・電話対応を丁寧に行い、保護者や地域の方々の声をしっかりと聞くことで、来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・地域アンケート			A A A	A
<p>(成果と課題)</p> <p>○公民館行事に生徒が参加した様子をホームページで発信することで、地域学校共同活動の取組を保護者に理解してもらうことができた。</p> <p>○毎日のホームページの更新や学級通信のタイムリーな発信により、学校や学級の様子をリアルタイムに伝えることができた。</p>							
<p>(改善策等)</p> <p>○ホームページ等で、今後も学校運営協議会を含めた情報発信に努めていく。</p> <p>○今以上にスクールサポートスタッフと連携を図り、来校しやすい雰囲気づくり、丁寧な電話対応に取り組んでいく。</p>							

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満